

2016年12月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度をみると、太平洋中部～北米にかけてと、大西洋～ユーラシア大陸にかけての領域で波列パターンが卓越した。北太平洋北東部やヨーロッパでは正偏差、ロシア西部～西シベリアでは負偏差が明瞭だった。偏西風は、ユーラシア大陸では平年の位置と比べて北寄りを流れた。帯状平均した東西風は、北半球では高緯度側、南半球では低緯度側で西風偏差だった。帯状平均した対流圏の気温は、対流圏では低緯度域を中心に概ね正偏差だった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、ベンガル湾東部～インドシナ半島南部、インドネシア～フィリピン付近、太平洋中部の北緯10～15度付近で活発、インド洋西・中部、太平洋赤道域の広い範囲で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、月を通して不明瞭だった。対流圏下層をみると、北太平洋の亜熱帯高気圧は平年と比べて北への張り出しが強く、日本の南東～東海上では明瞭な高気圧性循環偏差だった。対流圏上層をみると、ユーラシア大陸南部では東西に広く高気圧性循環偏差となった。南方振動指数は+0.3だった。

世界の天候

2016年12月の世界の月平均気温偏差は+0.34°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、2番目に高い値となった。12月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.75°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

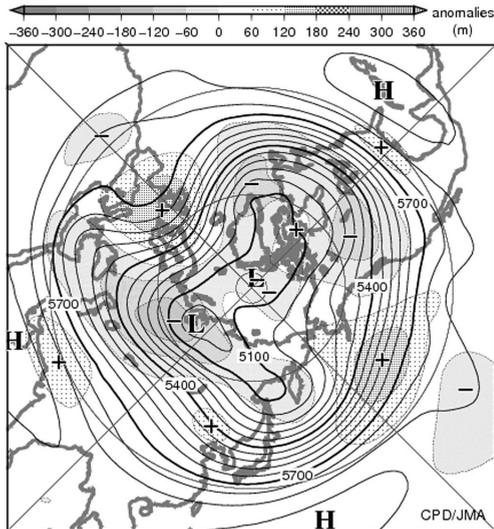
- 沖縄地方～中国南東部、モンゴル～パキスタン南部で異常高温となった。
- トルコ及びその周辺で異常低温となった。
- ヨーロッパ南東部～アイルランドで異常少雨となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

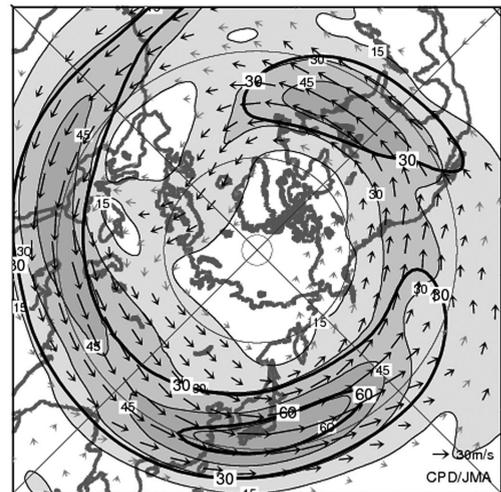
「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



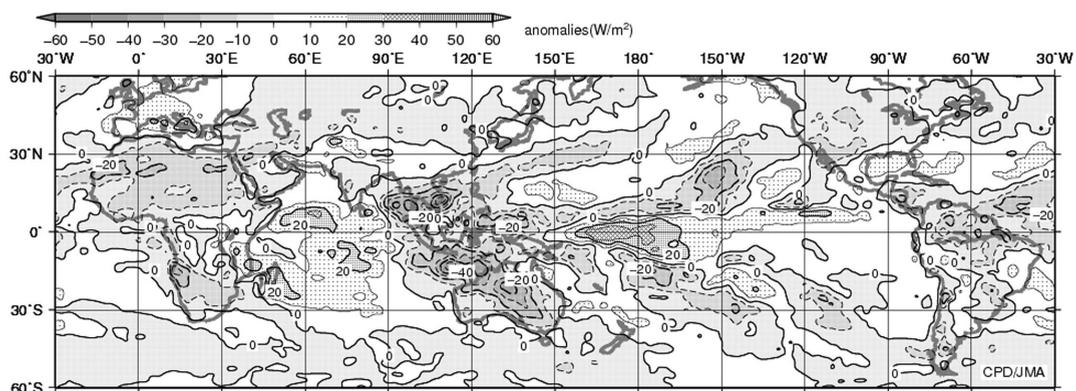
2016年12月の北半球月平均 500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

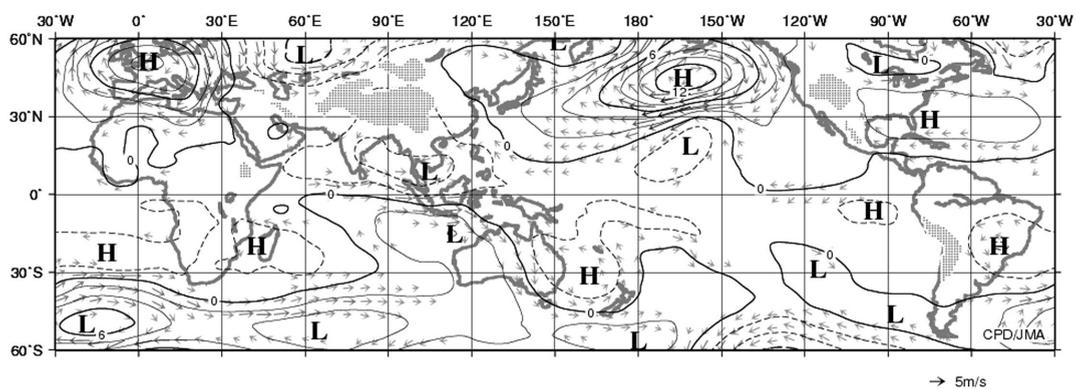


2016年12月の北半球月平均 200 hPa 風速及び風ベクトル

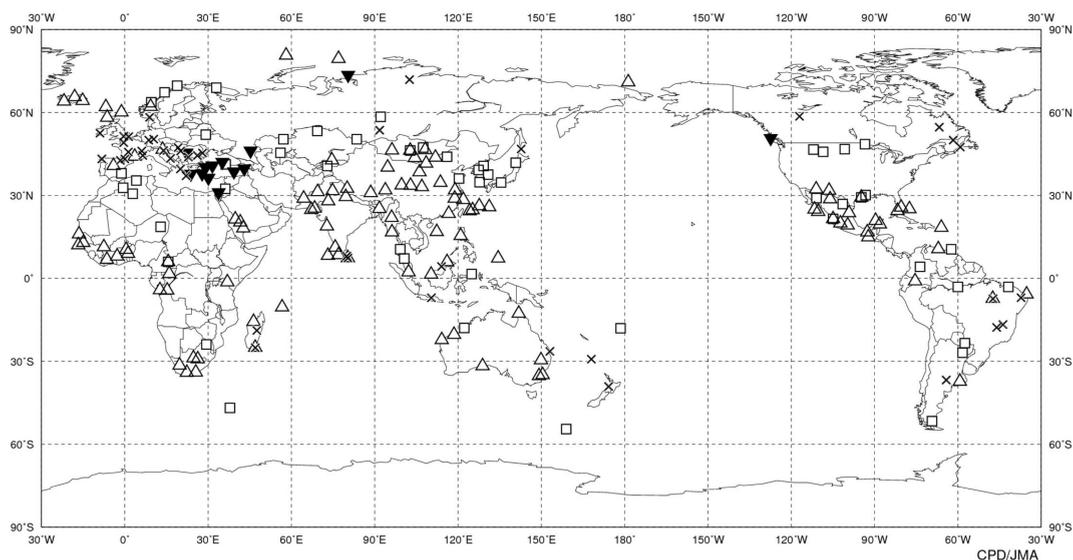
等値線間隔は15 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は30 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2016年12月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋
 大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2016年12月の月平均 850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2016年12月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。